

ESG説明会

AGCのサステナビリティ経営

-気候変動問題への取り組み-

The AGC logo is displayed in a white box on the right side of the slide. It consists of the letters 'AGC' in a bold, blue, sans-serif font. A small red square is positioned above the letter 'C'.

AGC株式会社

2022年9月5日

Your Dreams, Our Challenge

■ A G Cのサステナビリティ経営	P.3
■ 気候変動問題への取り組み	P.11
■ 最後に	P.49
■ Appendix	P.51

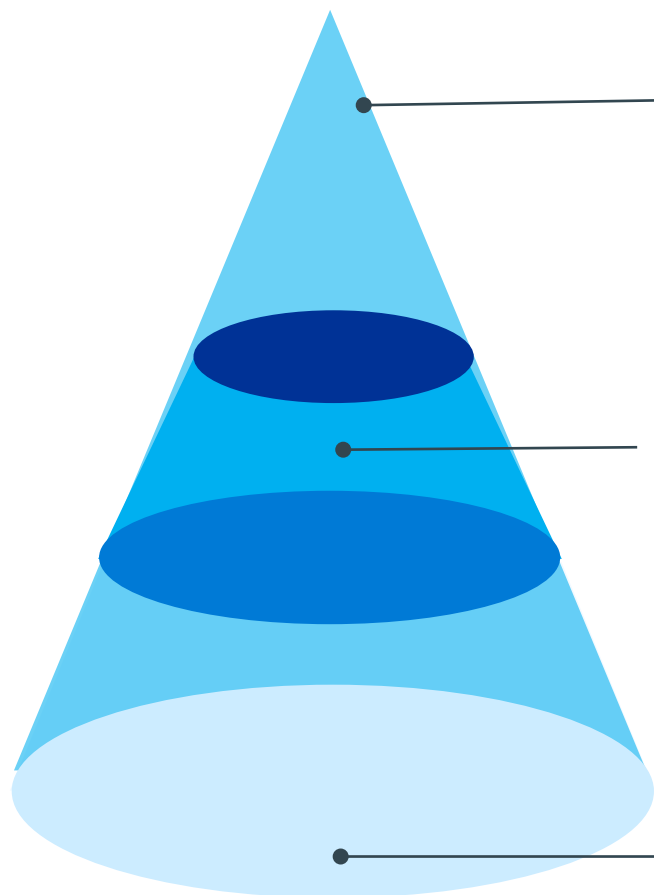
1. AGCのサステナビリティ経営

■ 国家、企業におけるサステナブルな社会実現への取り組みが加速

サステナビリティ関連の国際イニシアティブ



企業へのサステナブルな社会実現への要請が高まる



私たちの使命

“AGC、いつも世界の大事な一部”
～独自の素材・ソリューションで、
いつも世界中の人々の暮らしを支えます～

私たちの価値観

- ◆ 革新と卓越 (Innovation & Operational Excellence)
- ◆ 多様性 (Diversity)
- ◆ 環境 (Environment)
- ◆ 誠実 (Integrity)

私たちのスピリット

「易きになじまず難きにつく」

■ 社会的価値と経済的価値の両立により成長

独自の素材・ソリューションの提供を通じて
サステナブルな社会の実現に貢献するとともに
継続的に成長・進化する
エクセレントカンパニーでありたい

企業価値向上

社会的価値

5つの社会的価値
の創出

サステナビリティ経営の推進

経済的価値

安定的に
ROE **10%**以上

事業ポートフォリオ変革



■ 社会的課題の解決に向け、事業活動を通じた5つの社会的価値を創出

安全・快適な都市インフラの実現への貢献



建築用Low-Eガラス



自動車用UVカットガラス



塩化ビニル樹脂

安心・健康な暮らしの実現への貢献



医薬品（中間体・原体）



農薬（中間体・原体）



農業温室ハウス用フィルム

健全・安心な社会の維持への貢献



地域社会との関係



周辺環境への配慮



サプライチェーンの人権

公正・安全な働く場の創出への貢献



職場環境の安全



多様性



従業員エンゲージメント

持続可能な地球環境の実現への貢献



気候変動問題への対応



資源の有効利用

社会的価値と経済的価値を同時に実現し成長

■ ポートフォリオ変革とサステナビリティ経営の推進により実現

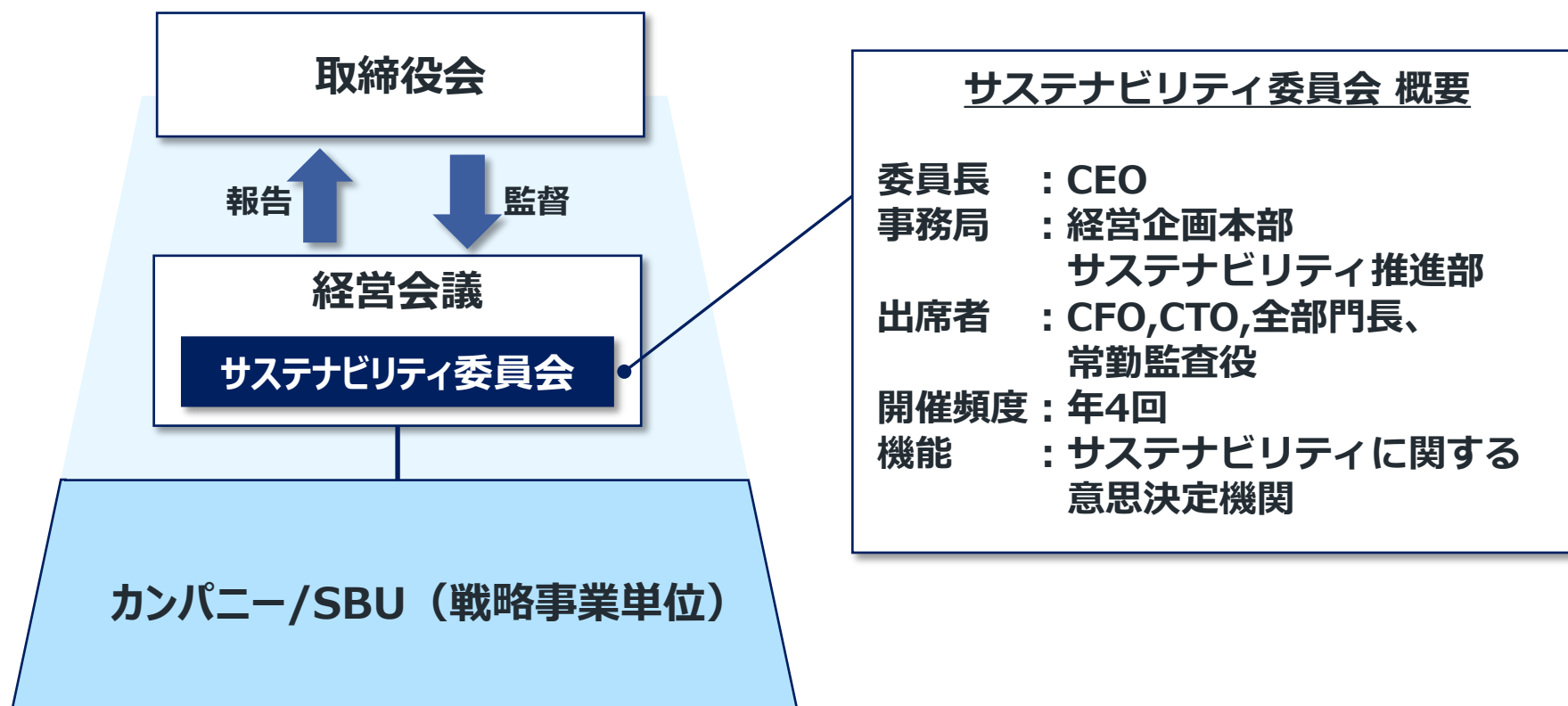
		2021年 (実績)	2023年	2025年	2030年 . . .	2050年
経済的価値	営業利益	2,062億円	2,300億円	2,500億円	3,000億円	
	戦略事業 営業利益	538億円	800億円	1,000億円	1,500億円	
	EBITDA*	3,729億円	4,330億円	4,900億円		
	ROE	10%	安定的に10%以上			
	D/E比率	0.41	0.5以下			

社会的価値	GHG関連	GHG排出量 30%削減**				カーボン・ネットゼロ を目指す (Scope1+2)
	創出したい 社会的価値	安心・健康な 暮らしの実現 への貢献	安全・快適な 都市インフラの 実現への貢献	持続可能な地 球環境の実現 への貢献	公正・安全な 働く場の創出 への貢献	健全・安心な 社会の維持へ の貢献
	非財務資本	グループガバナンス、人財、研究開発の強化				

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

**Scope 1 + 2 排出量、Scope 3 排出量 (カテゴリ1,10,11,12) における削減目標

- 取締役会の監督の下、サステナビリティ委員会が気候変動問題への対応、ESGに関する非財務指標の策定等のグループ戦略を策定、進捗管理を実施



AGCのポジション



生産から輸送に関わるCO2の排出を極力小さく、
環境貢献製品のご提供を極力大きく
することによって業界リーダーとしての責任を果たしていく

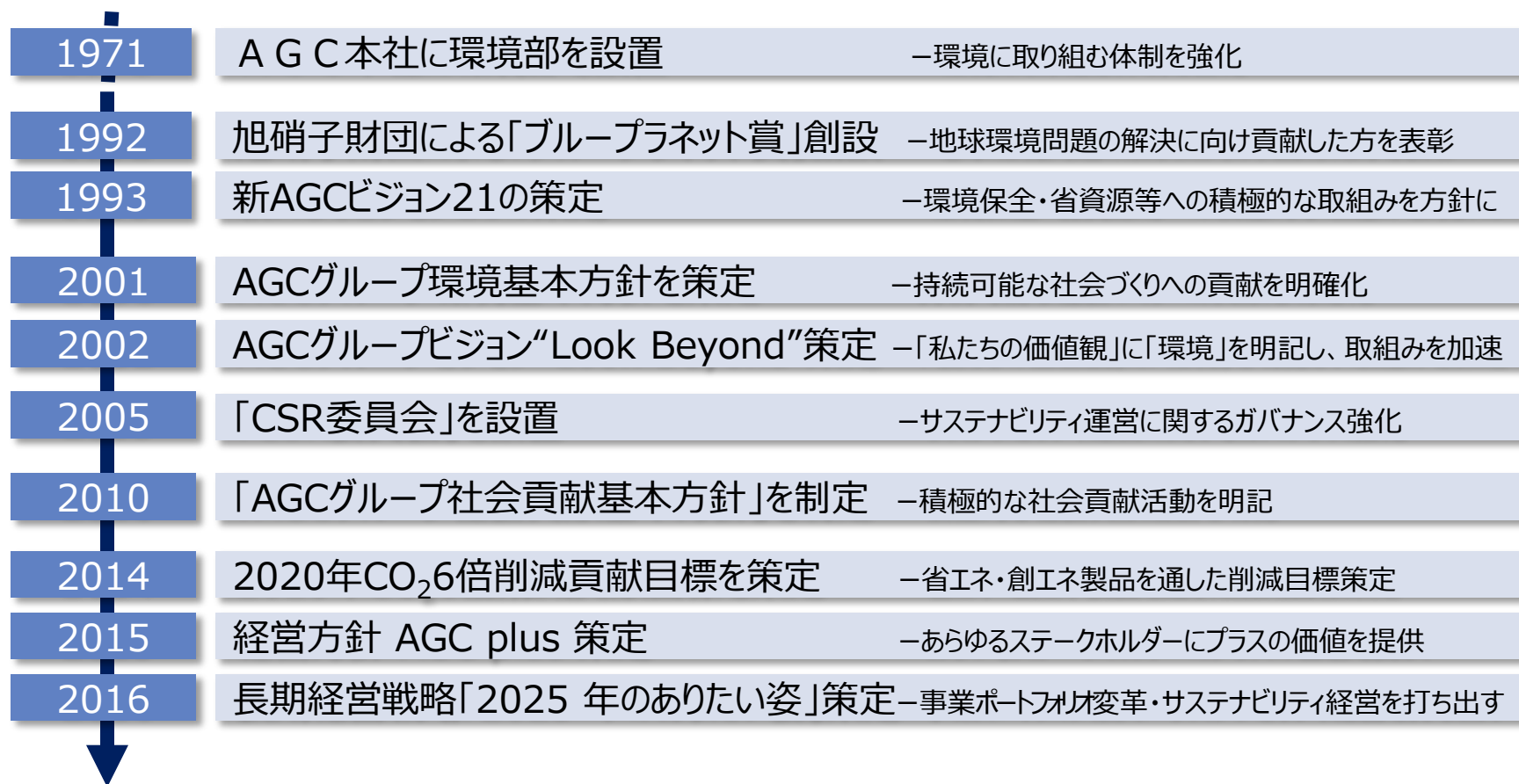
2. 気候変動問題への取り組み

■これまでの歩みと体制

■事業ポートフォリオ変革

■気候変動のリスクと機会に対応

- 従来から製品開発等を通して環境保全に取り組む
- 2001年に「AGCグループ環境基本方針」を策定、AGCグループとして持続可能な社会づくりに向けた取り組みを加速



- 旭硝子財団*は、地球サミットの開催された1992年に「ブループラネット賞」を創設
- 地球環境問題の解決に向け著しく貢献した個人または組織(累計60件**)を表彰
- いままでに、2021年ノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎博士(第1回)、SDGs策定に携わったジェフリー・D・サックス教授(第24回) も受賞

第1回 受賞者 (1992年)



真鍋 淑郎博士



**Blue
Planet
Prize**

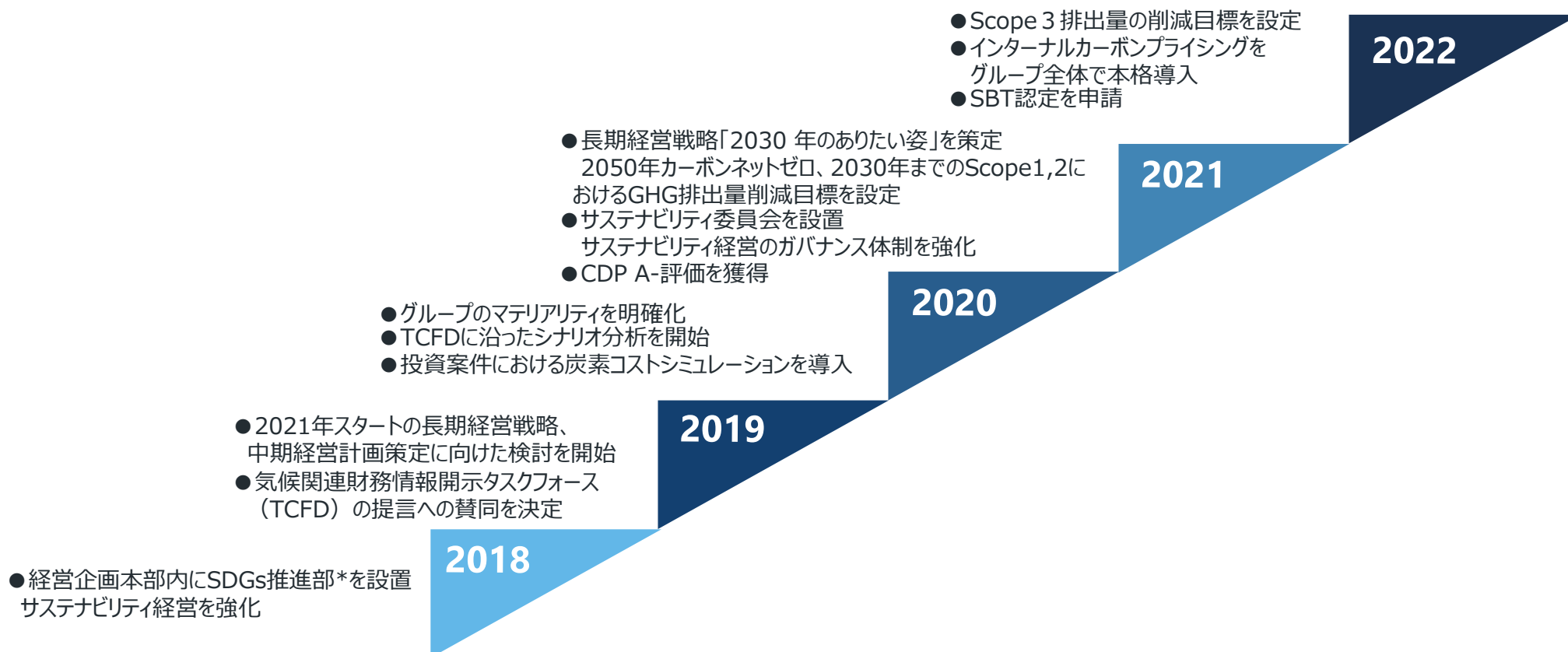
第24回 受賞者 (2015年)



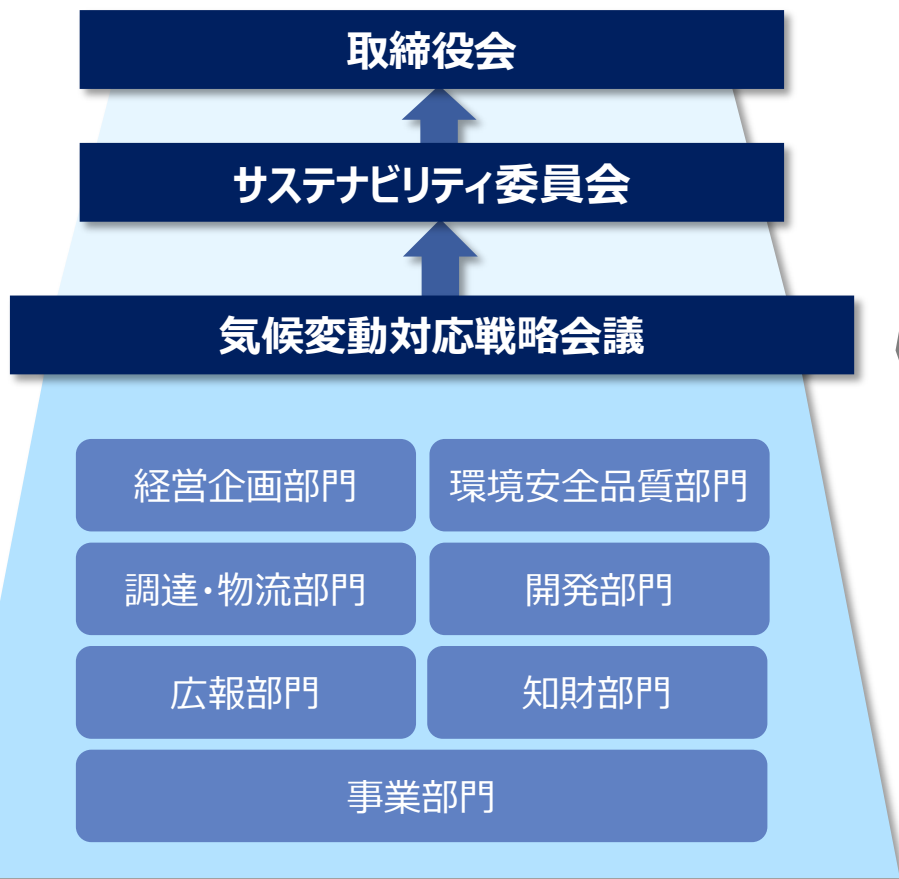
ジェフリー・D・サックス教授

- 2018年に経営企画本部内にSDGs推進部*を設置し、気候変動問題への取り組みを更に加速

気候変動問題への取り組み



- グローバルかつ事業横断的に社内部門が連携する「気候変動対応戦略会議」を設置
- 気候変動問題に関する重要な方針・施策等を検討



【気候変動対応戦略会議での主な議題】

- 気候変動対応全般の方針、制度、開示
- 自社GHG排出削減への対応
 - ・Scope1-3 GHG排出量実績確認と削減施策
- GHG排出削減への貢献
 - ・製品、技術開発促進の仕組みなど
- リスクマネジメント
 - ・短中期、長期の移行リスク、物理的リスク特定と施策

2. 気候変動問題への取り組み

■これまでの歩みと体制

■事業ポートフォリオ変革

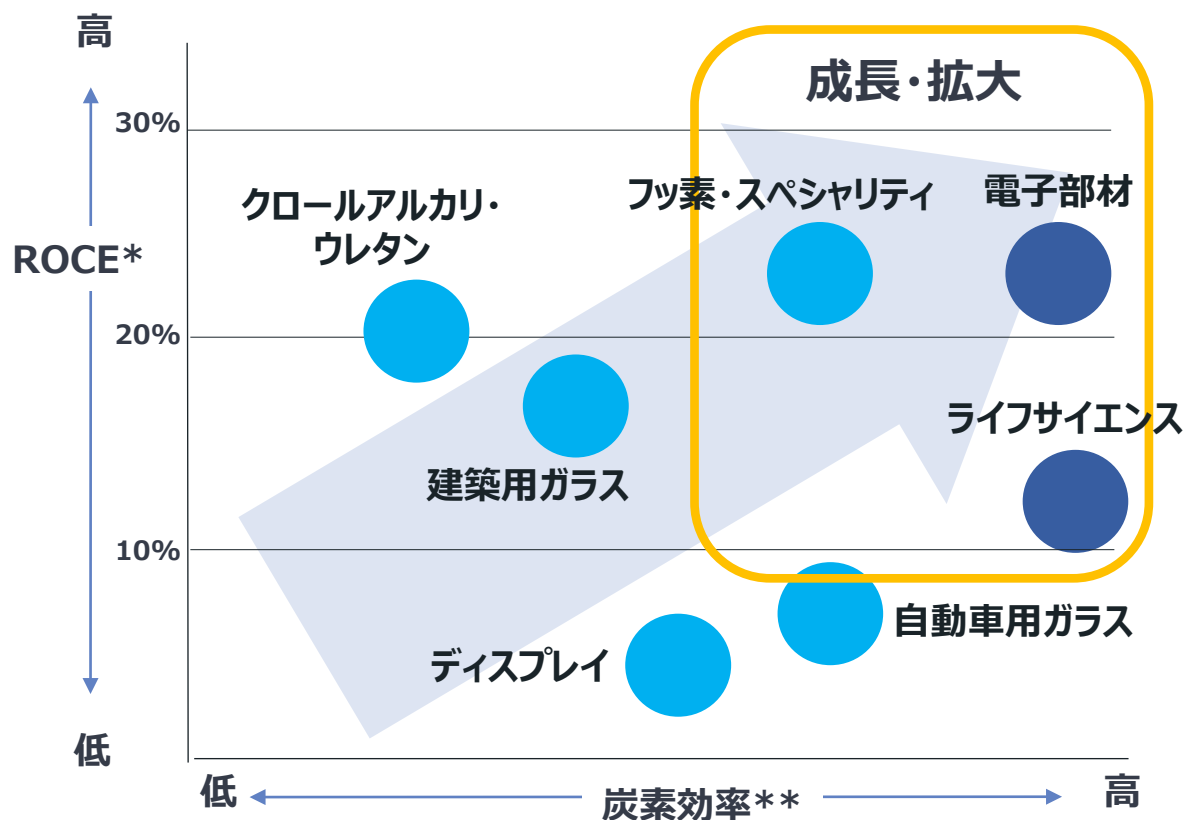
■気候変動のリスクと機会に対応

- 両利きの経営の推進により、市況変動に強く、資産効率・成長性・炭素効率の高い事業ポートフォリオの構築を目指す



- 炭素効率、資産効率の高い戦略事業を拡大するとともに、コア事業の炭素効率・資産効率の向上に取り組むことにより、機会獲得とリスク低減をともに実現

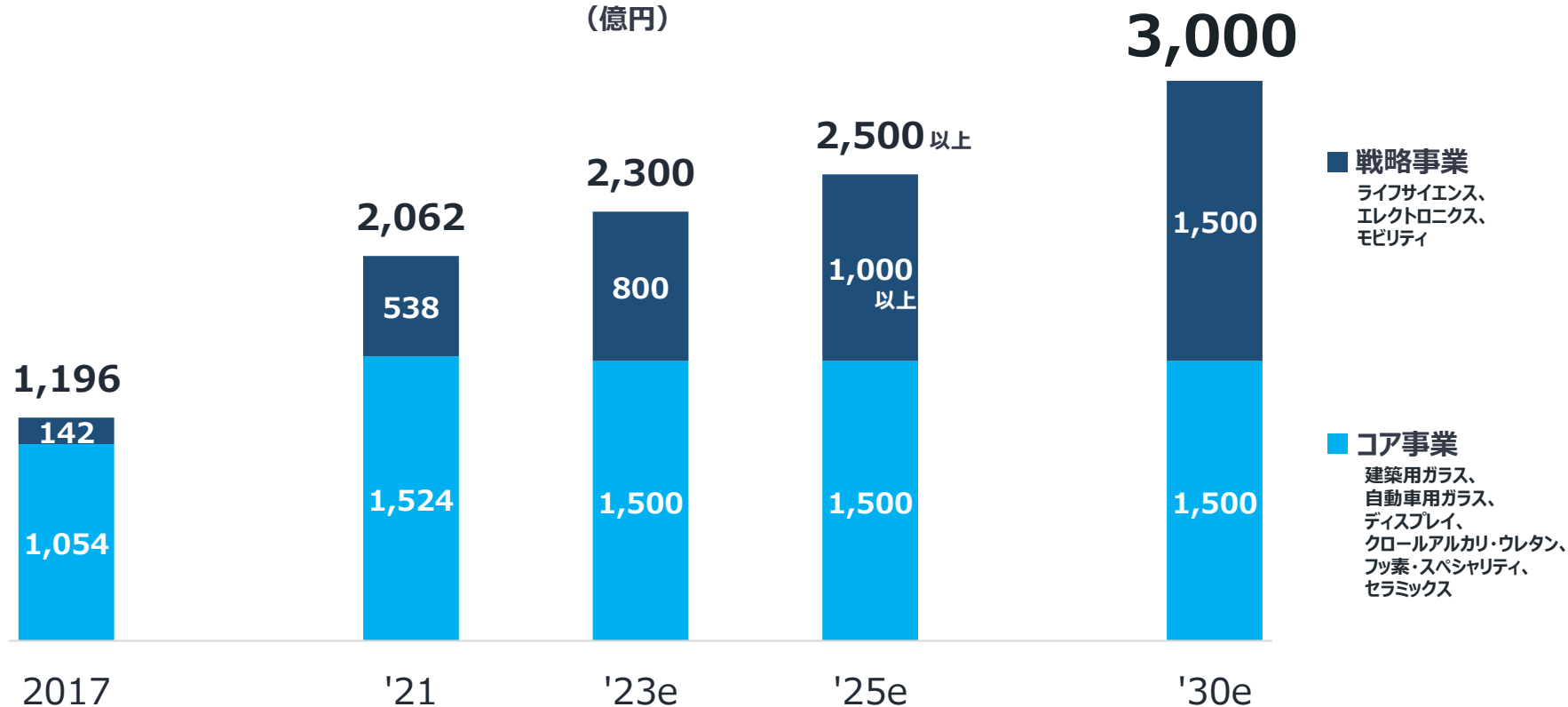
事業ポートフォリオの方向性



■ 戦略事業を拡大し、より炭素効率の高い事業ポートフォリオに転換

営業利益構成 推移

(億円)



2. 気候変動問題への取り組み

- これまでの歩みと体制
- 事業ポートフォリオ変革
- 気候変動問題への対応

- GHG削減への対応とGHG削減への貢献の両面から取り組みを推進



GHG削減への
対応



GHG削減への
貢献

2. 気候変動問題への取り組み

- これまでの歩みと体制
- 事業ポートフォリオ変革
- 気候変動問題への対応
 - GHG削減への対応
 - GHG削減への貢献

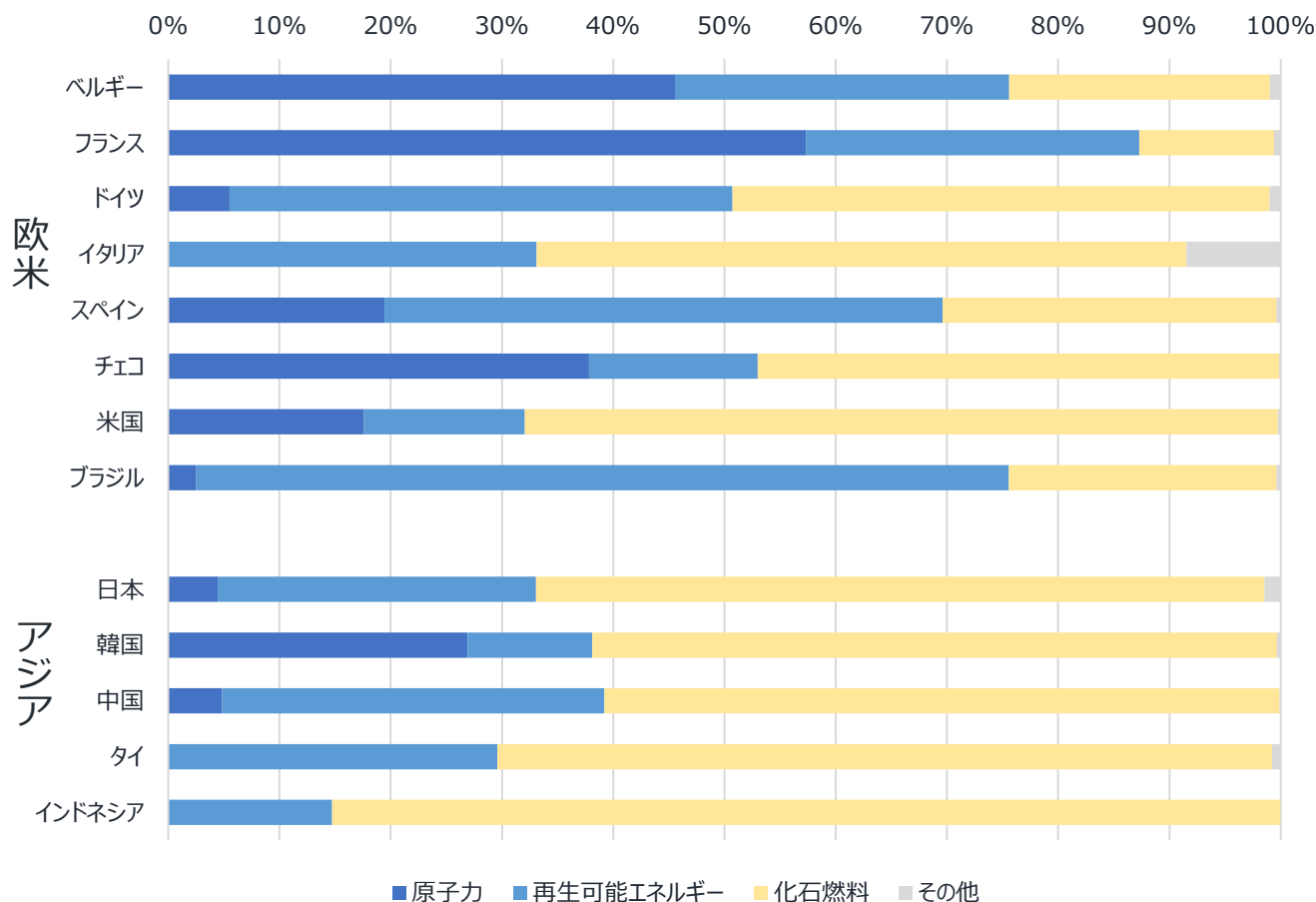
- エネルギー起源のCO2排出量削減に向け、各国でエネルギーの低炭素化、エネルギー消費効率の改善の動きが加速
- 特にエネルギーの低炭素化において、再エネなどを活用した電化が進む見通し



■ 各国における電力源の脱炭素化の動きに応じた最適なGHG削減策を推進

電源別発電電力量の構成比*

2030年に向けた
地域別のGHG削減方向性

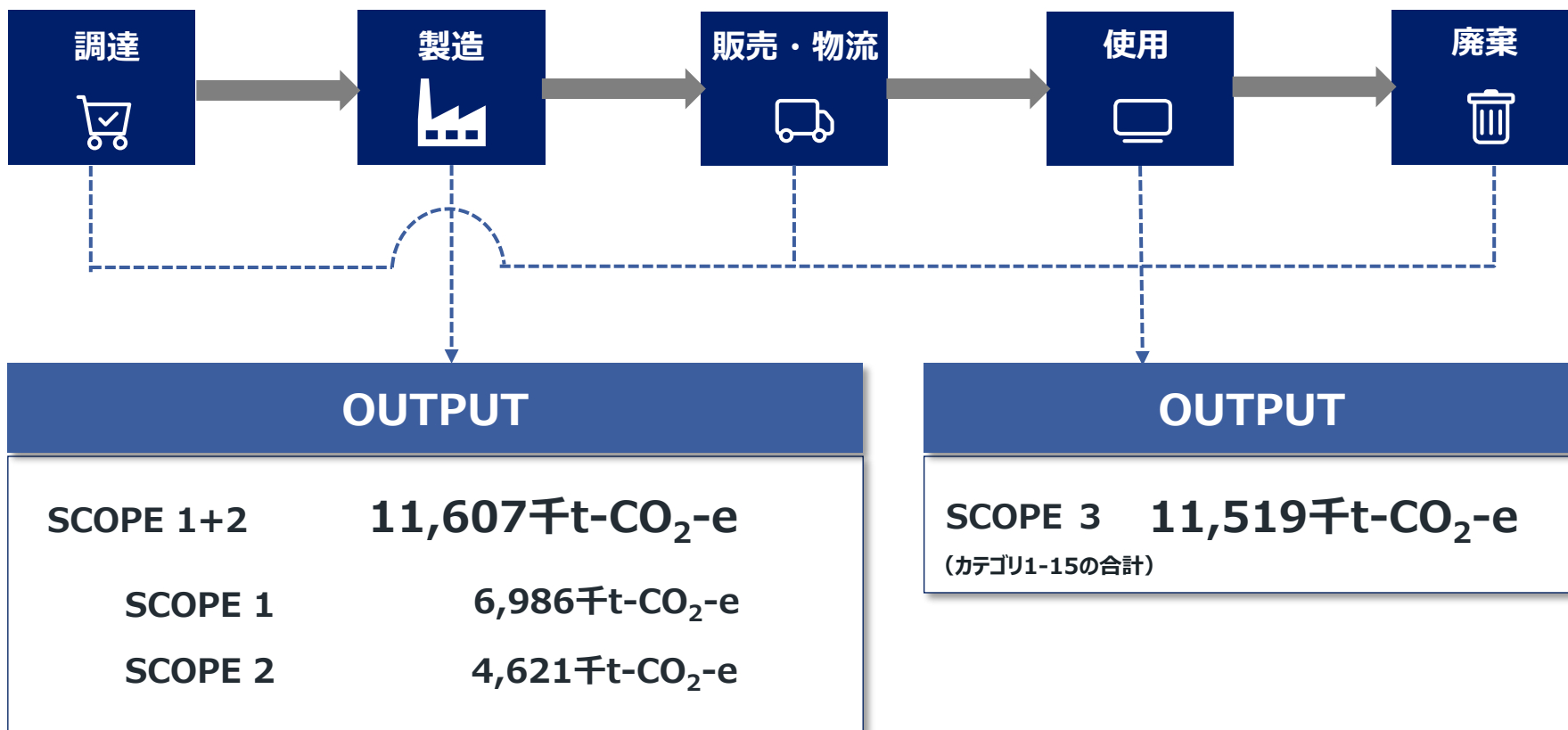


電力のGHG排出係数が低いので、
電化を積極推進

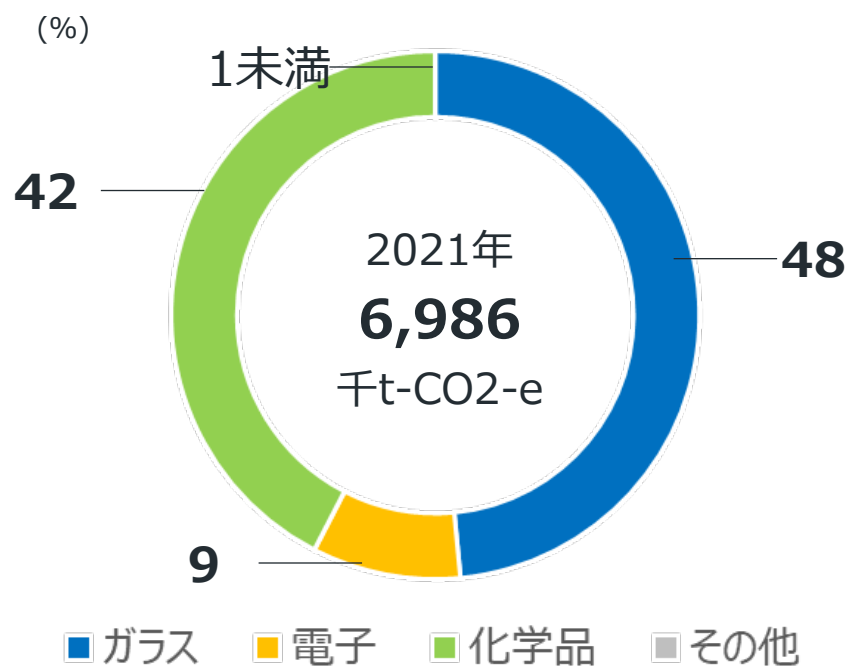
電力のGHG排出係数が高いので、
省エネ施策を加速

GHG排出量とScope毎の内訳 (2021年)

- 2021年GHG (CO₂) 排出量はScope 1,2で11,607千t、Scope 3で11,519千t



- Scope1の過半を占める排出源は、ガラス・電子セグメントのフロートガラス溶解窯
化学品セグメントの主な排出源は、自家発電設備

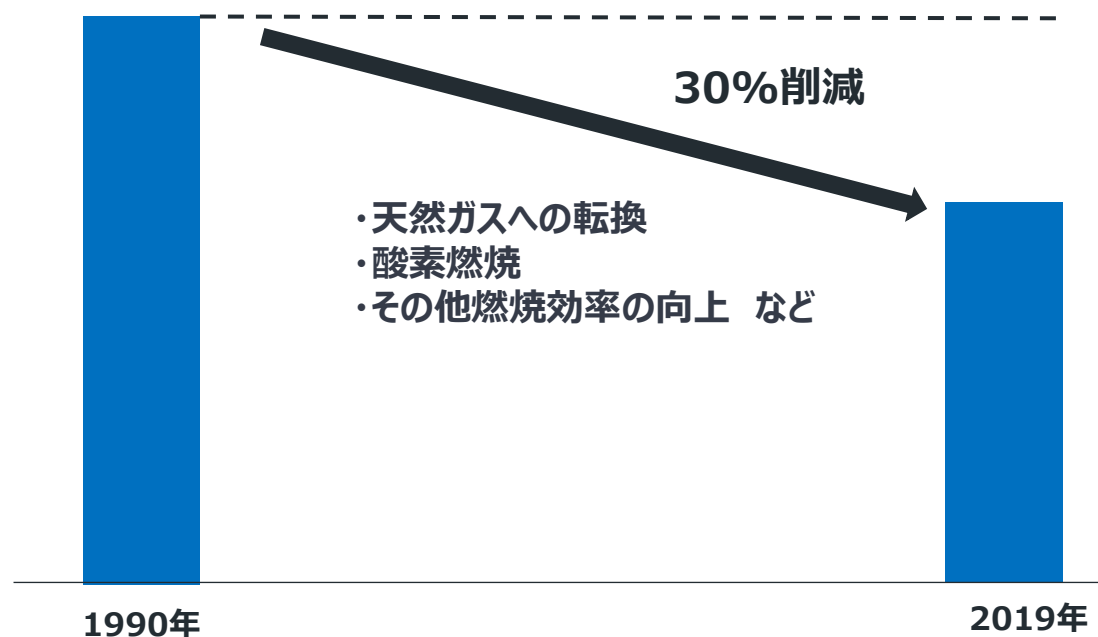


Scope1	
Scope1 合計	6,986千t-CO₂-e
● ガラス	3,379千t-CO ₂ -e
● 電子	623千t-CO ₂ -e
● 化学品	2,961千t-CO ₂ -e
● その他	24千t-CO ₂ -e

取り組み実績： フロートガラス溶解窯におけるCO2排出量削減

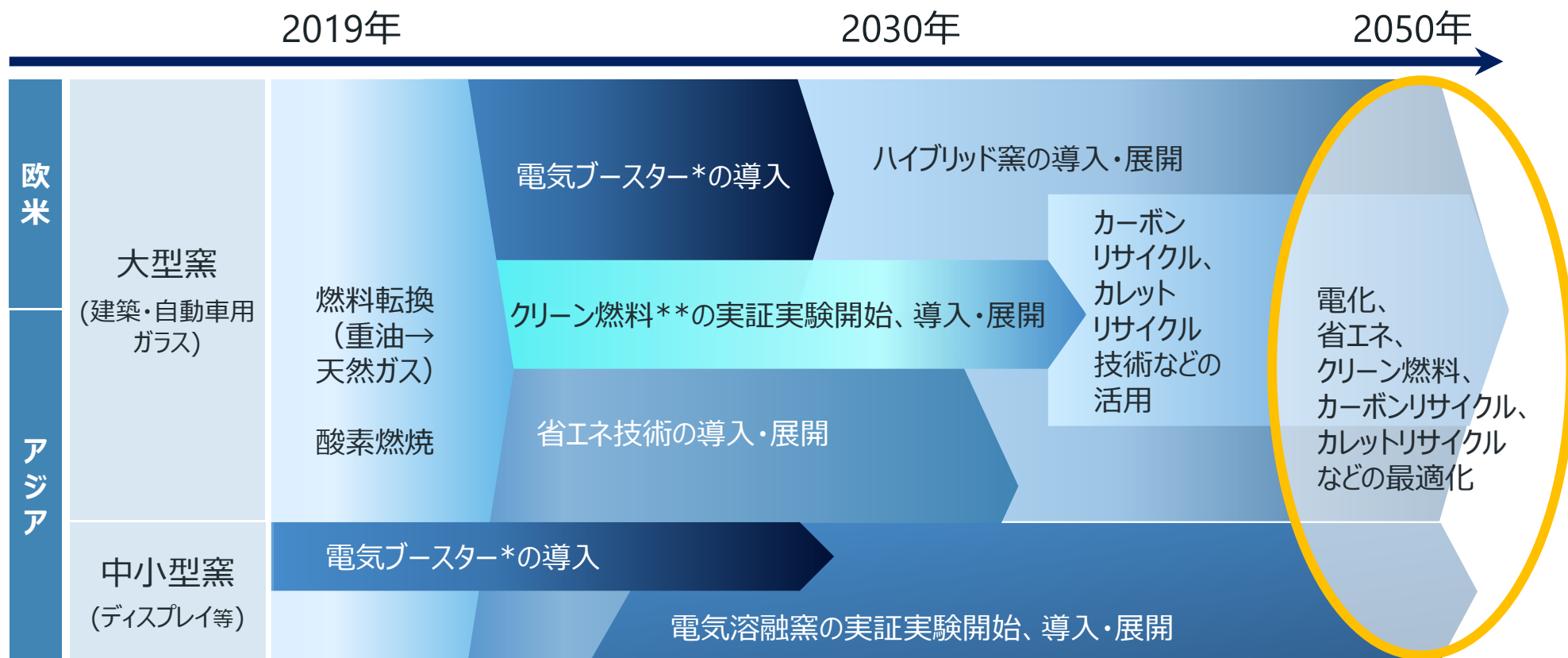
- ガラス事業では、これまでも燃焼効率の改善など溶解プロセスにおけるCO2排出量削減への取り組みを実施
- 欧州では、1990年から2019年にかけて、天然ガスへの燃料転換、酸素燃焼などによりガラス生産1トンあたりCO2排出量を30%削減

1トンあたりのCO2排出量



中長期的な取り組み： フロートガラス溶解窯におけるGHG排出量削減 技術ロードマップ

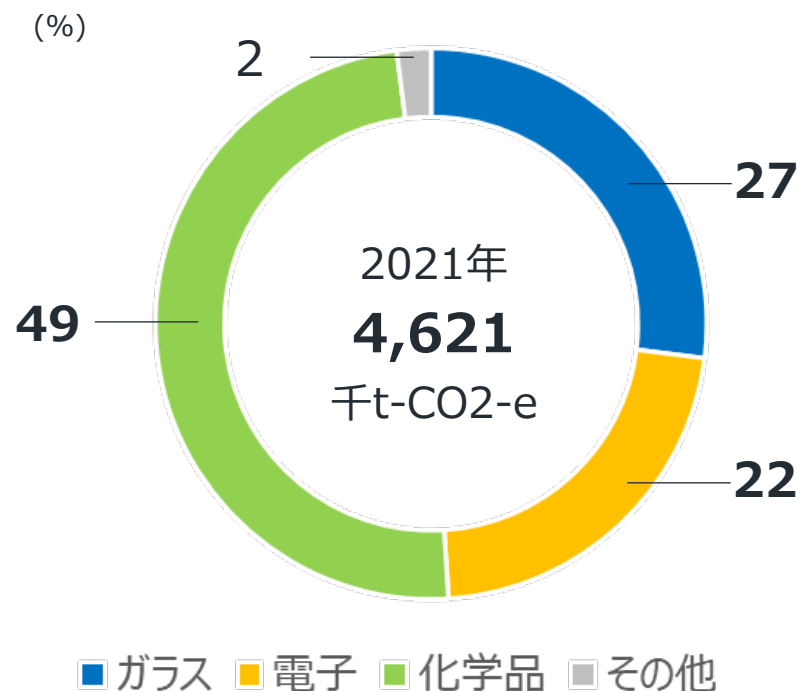
- 2030年に向けて、欧米では電化、アジアでは省エネの施策を優先して進める計画
- 2050年に向けては、電化を中心に複数の技術を組み合わせて、目標達成を狙う



*通電補助加熱

**アンモニア、水素など

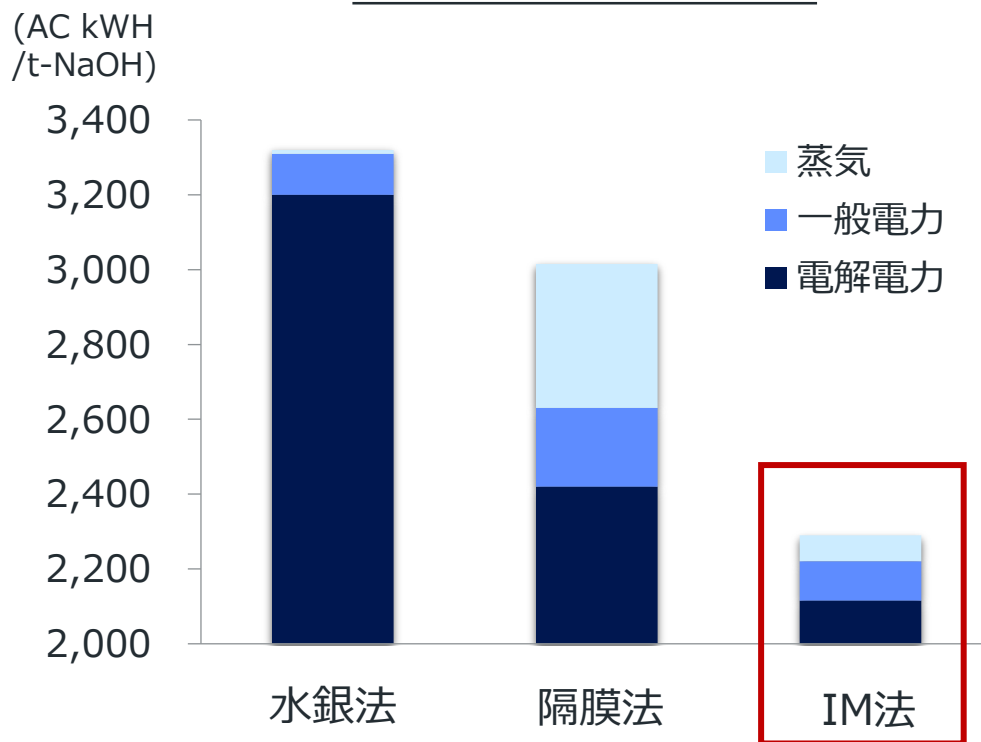
- Scope2の主な排出源は、化学品セグメントのクロールアルカリ電解設備



Scope2	
Scope2 合計	4,621千t-CO₂-e
● ガラス	1,126千t-CO ₂ -e
● 電子	1,022千t-CO ₂ -e
● 化学品	2,279千t-CO ₂ -e
● その他	94千t-CO ₂ -e

- 1975年、クロールアルカリ電解設備に関して、環境負荷が著しく低い「イオン交換膜法(IM法)」を開発(世界初)、電力原単位を大幅に削減してきた
- イオン交換膜「フレミオン®」の外販を行い、業界の環境負荷低減にも貢献

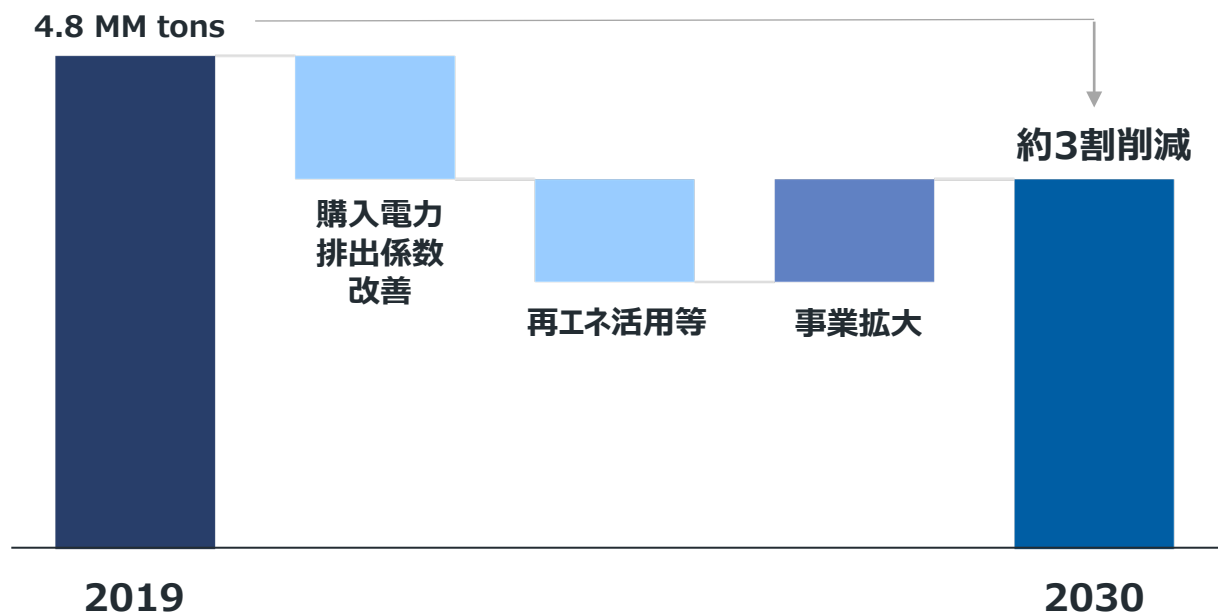
電解設備電力原単位*



中長期的な取り組み： 化学品事業におけるGHG排出量削減

- 購入電力の電力排出係数の低下や各拠点での再生可能エネルギーの導入などにより、GHG排出量の更なる削減を推進

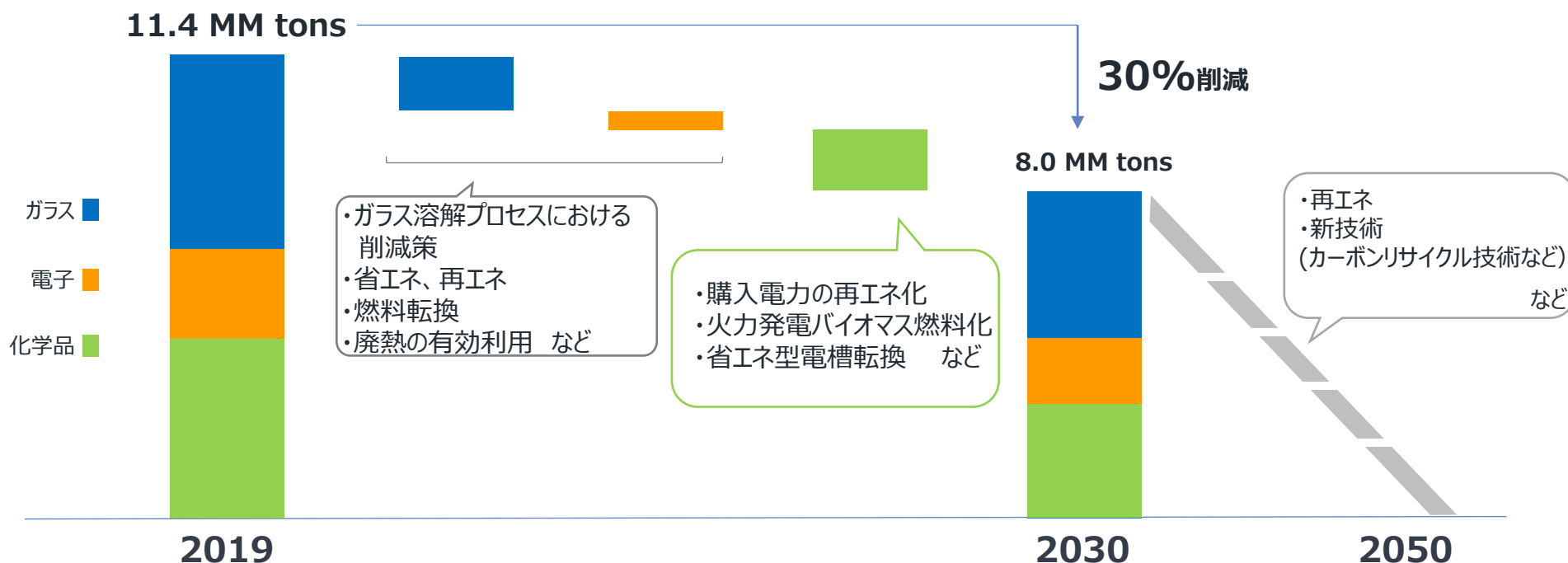
化学品事業におけるGHG排出量*の将来動向イメージ



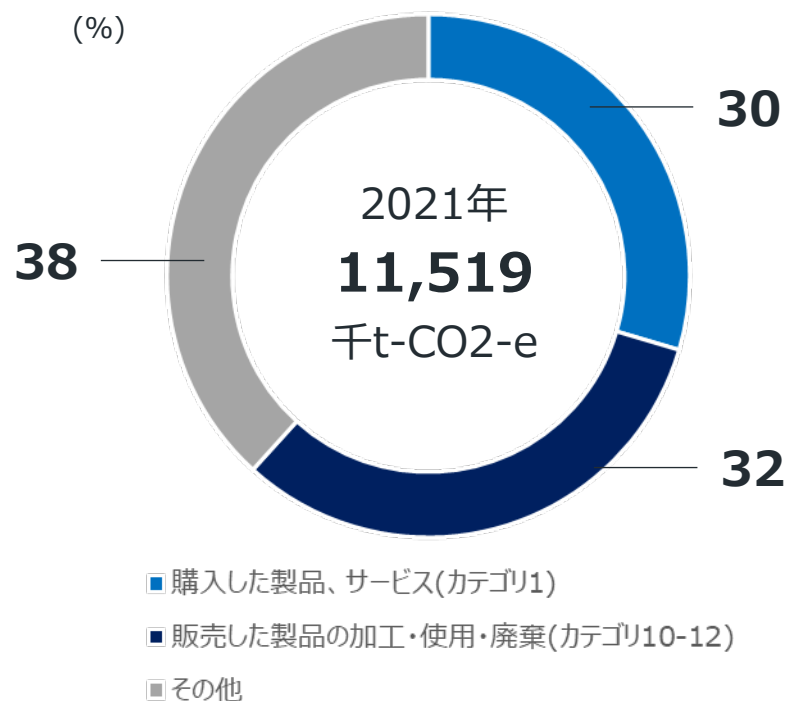
GHG排出量削減 ロードマップ (Scope1+2)

- 主要な排出源であるガラス溶解プロセスにおける技術革新に加え、クロールアルカリ事業の電力源の再生可能エネルギーへの転換、自家火力発電でのバイオマス燃料の活用により、目標を達成する計画

GHG排出量削減 ロードマップ (Scope1+2)



- 購入した製品・サービスと販売した製品の加工・使用・廃棄のGHG排出量が全体の6割を占める



Scope3	
Scope3 合計	11,519千t-CO₂-e
● 購入した製品・サービス (カテゴリ1)	3,406千t-CO ₂ -e
● 販売した製品の加工・使用・廃棄 (カテゴリ10-12)	3,703千t-CO ₂ -e
● その他 物流・配送など	4,410千t-CO ₂ -e

サプライチェーン全体のCO2排出量の把握と対策に課題



■ CDPサプライチェーンプログラムに参画

- ・サプライチェーン品目別排出量の把握精度向上
- ・他企業の削減取り組み事例の把握 など

■ サプライヤーエンゲージメント活動の強化

- ・定期的なアンケート実施により、サプライヤーと問題意識を共有、実態の把握に努め、サプライチェーン全体での削減を目指す

CDP サプライチェーンプログラム

フェーズ1 アンケートによるエンゲージメント



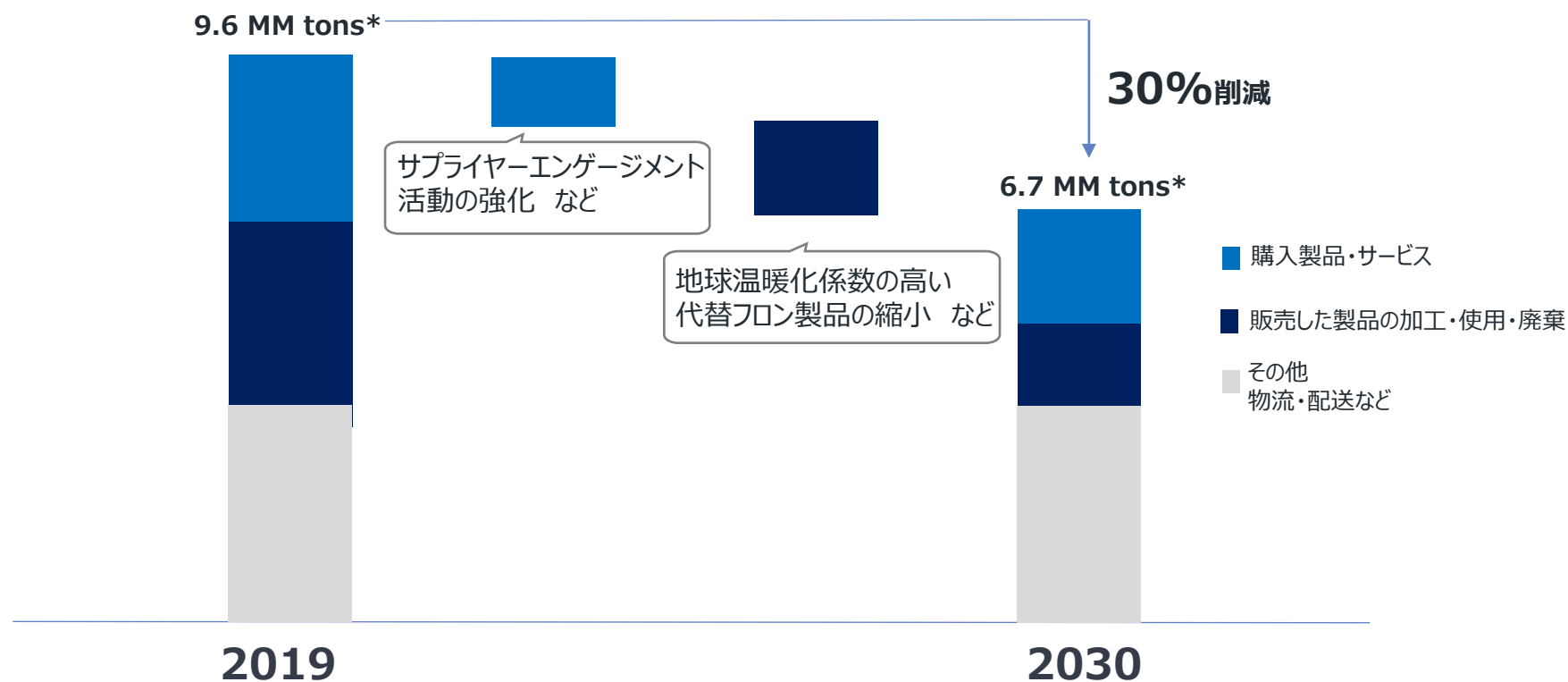
フェーズ2 目標KPIの設定と対応



フェーズ3 成果の確認・改善

- サプライヤーエンゲージメント活動の強化や、地球温暖化係数の高い代替フロン製品の縮小などにより、目標を達成する計画

当社グループ Scope3 GHG排出量



2. 気候変動問題への取り組み

- これまでの歩みと体制
- 事業ポートフォリオ変革
- 気候変動問題への対応**
 - GHG削減への対応
 - GHG削減への貢献**

■ 製品ライフサイクル全体の環境負荷低減を目指し、製品開発等を推進

ガラス	電子	化学品	セラミックス
<ul style="list-style-type: none"> ・フロート板ガラス (リサイクル原料使用製品、薄板化) ・Low-E複層ガラス ・コーティングガラス ・建材一体型太陽電池モジュール ・薄板ガラス(化学強化ガラス) ・自動車用ガラス など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイ用ガラス (リサイクル原料使用製品) ・太陽電池用TCO基板 ・太陽電池カバーガラス ・光学関連部材 ・高速通信用部材 ・高出力LED用ガラス セラミックス基板 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・低環境負荷型冷媒・溶剤 ・燃料電池用部材 ・フッ素樹脂 ・塗料用フッ素樹脂 ・太陽電池保護用フッ素樹脂フィルム <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・耐火物 (リサイクル原料使用製品) ・超断熱セラミックス炉壁 ・バイオマス発電ボイラー用耐火物・エンジニアリング <p style="text-align: right;">など</p>

これまでの環境負荷低減の取り組み

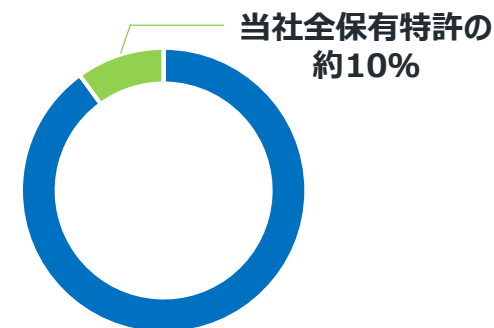
- ・ 2020年に年間CO2排出量の6倍を省エネ・創エネ製品で削減することを目指し、概ね達成
- ・ 今後はLCA手法*を含めた評価手法の洗練化と新たな経営目標設定を行う

■ サステナブルな社会の実現に向けたルール形成に取り組む

<具体例>

ZEB* ¹ を実現するための方法論	ISO(国際標準化機構)における技術仕様書の発行に貢献
ISOにおけるサーキュラーエコノミーの標準化	製品のリサイクル性などの指標等を開発し、資源の有効活用に貢献
IEC(国際電気標準会議)における削減貢献量* ² の標準化	製品ライフサイクル全体を通じたGHG削減に貢献

■ 低炭素社会に貢献するSDGs目標に分類*³される 保有特許*⁴は、当社全保有特許の約10%



■ 環境商品に対する第三者認証の取得も推進

A G C ガラス・ヨーロッパ社による合わせガラス製品の「Cradle to Cradle™認証」の取得、
「LEED*⁵」のクレジット付与
(2010年、板ガラスとコーティングガラスの分野では欧州初)



*¹ ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング) : 消費する一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物

*² 環境負荷の削減効果を持つ評価対象製品のライフサイクル全体において、当製品による温室効果ガス排出量の削減分を定量化したもの

*³ SDGs目標(7、12、13)に対するもので、保有特許のSDGs目標ごとの分類は、LexisNexis社の特許解析ツール「PatentSight」により実施

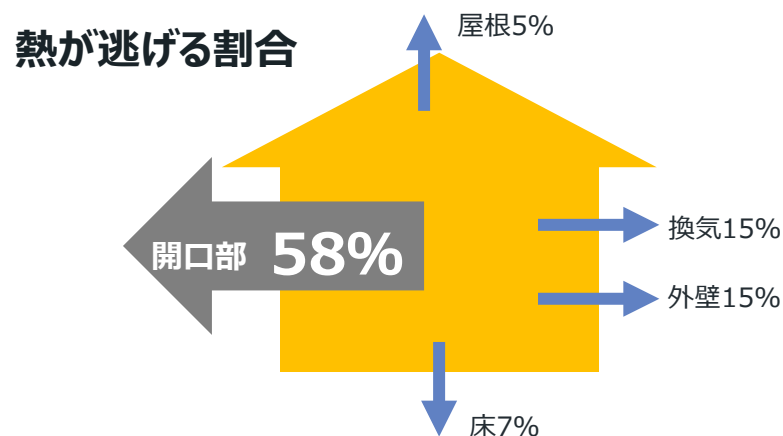
*⁴ 2022年6月時点で595件、登録済みおよび登録手続き中の特許 (ファミリー) を指す

*⁵ グリーンビルディング認証

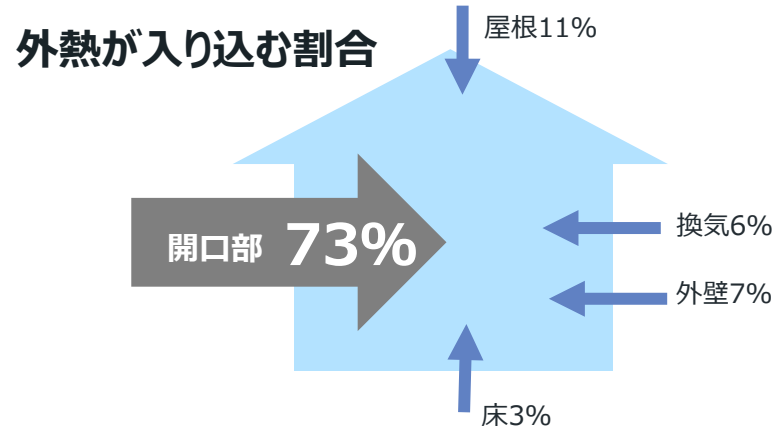
- 脱炭素への取り組みにおいて、建物におけるエネルギー消費効率の向上が課題
- 建物のエネルギー消費効率向上には建物からの熱の流出／流入を削減することが求められ、開口部にある窓ガラスの高機能化が重要

住宅における熱移動*

冬（暖房時）



夏（冷房時）



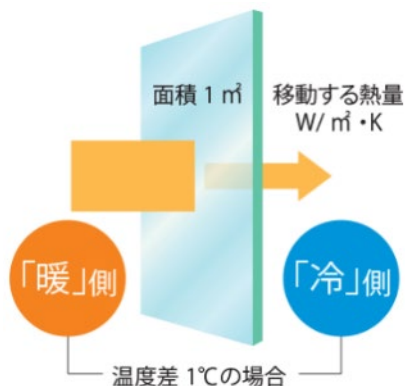
熱移動の主要因である開口部（窓）の遮熱・断熱性能の向上が鍵

- これまでも断熱性能のより高い製品を開発・販売、更なる向上に取り組み、建物のCO2排出量削減に貢献
- 最先端のLow-E複層ガラスは、1枚ガラスと比較して約90%熱の移動を抑制*1、優れた断熱効果があり、環境に貢献する製品として注目されている

窓ガラスの断熱性能の進化

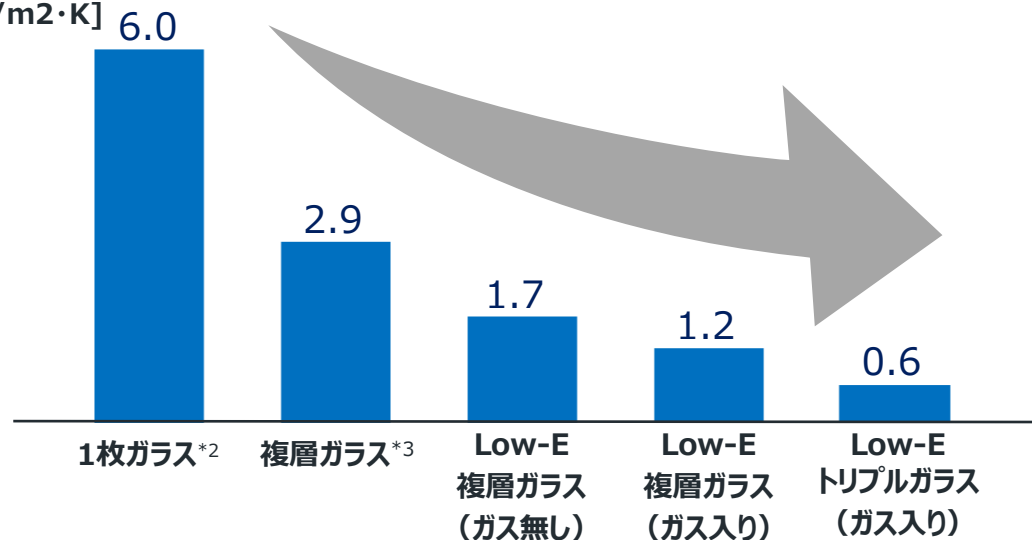
熱貫流率

内外温度差1℃で1時間・1㎡あたりに通過する熱量



熱貫流率

[W//m2・K]



1980年～

現在

*1 3ミリのフロートガラスとLow-E複層ガラス(ガス入り)での熱貫流率での比較

*2 3ミリのフロートガラス

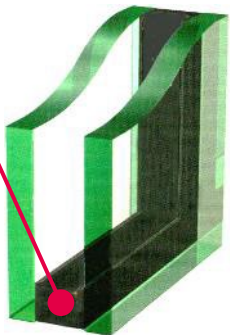
*3 中空層12ミリの透明複層ガラス

■ 環境負荷低減に貢献する新製品を継続的に開発

サーモクライン®

AGC独自開発の材料を使用、高耐久・高寿命・高断熱性に加え、リサイクルの簡易化を実現

AGC独自開発の
封着材（ブチル）のみ



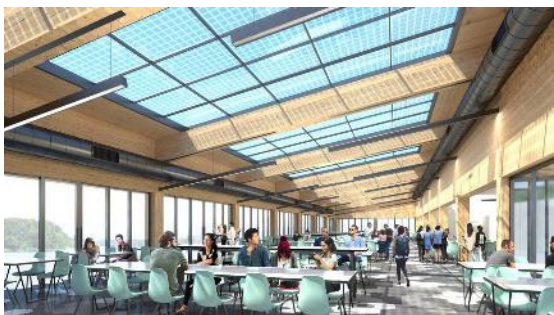
真空断熱ガラス「FINEO™」

世界最高クラスの断熱性能と高耐久性を実現
欧州のリノベーション需要に対応



BIPV*

ガラス間に発電セルを封入した建材一体型太陽電池

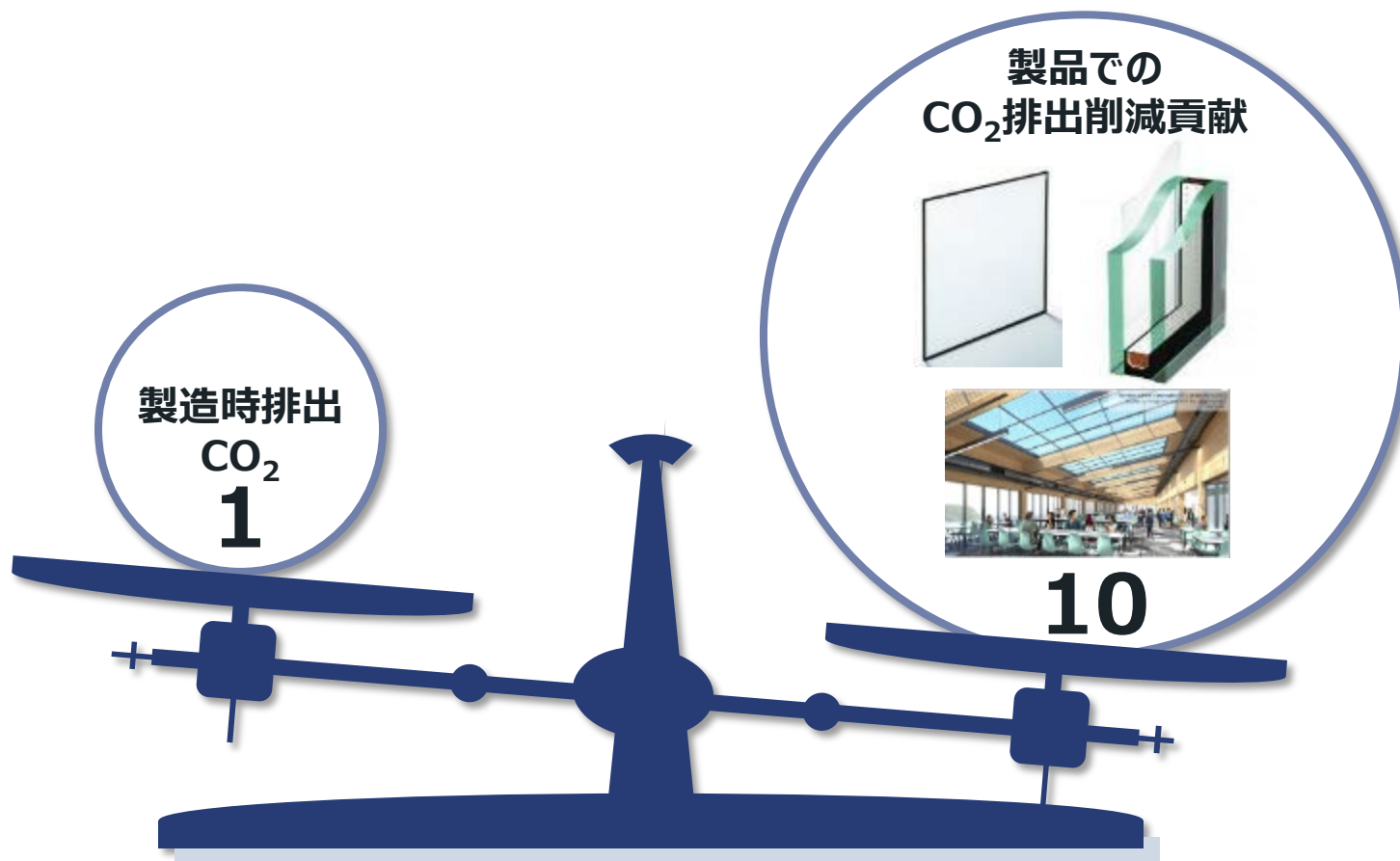


Lowカーボンガラス

製品ライフサイクルにおけるGHG排出量を大幅に低減



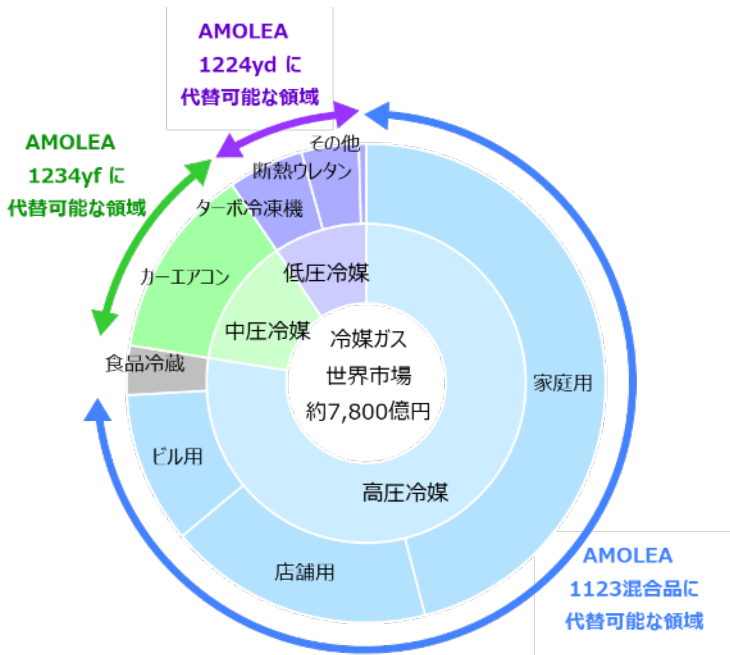
- 真空断熱ガラス、建材一体型太陽電池など、環境対応型新製品を多数開発
- 欧州事業では製品使用時に製造時排出量の10倍*のCO₂排出削減に貢献



化学品事業の取り組み：環境対応型次世代冷媒・溶剤の普及

- 地球温暖化係数（GWP*）が小さい環境対応型次世代新冷媒・溶剤を販売
- 地球温暖化防止に貢献

ターゲット市場**



カーエアコン用冷媒

GWP

1,430



R134a***

1以下

AMOLEA® 1234yf

ターボ式冷凍機用冷媒

GWP

1,030



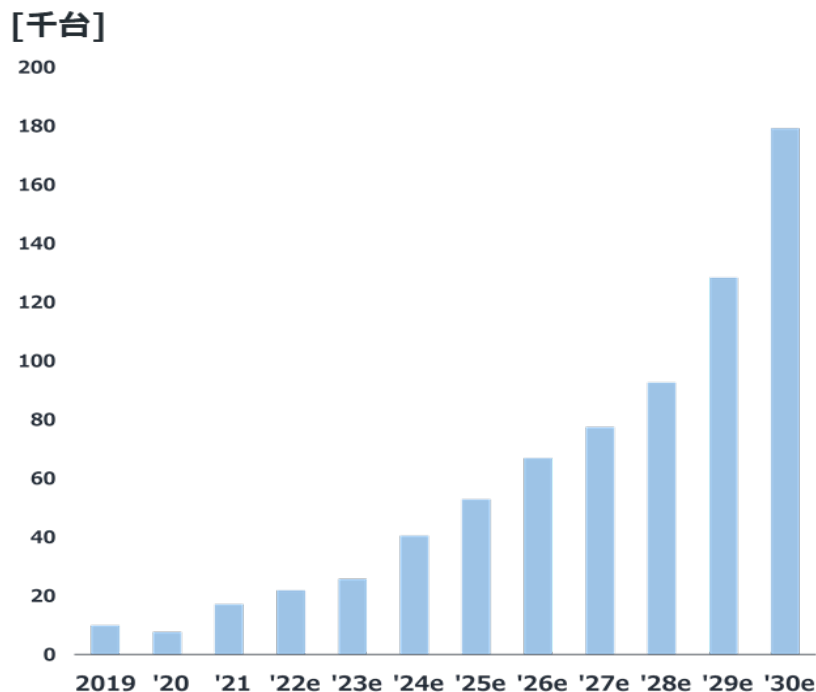
R245fa***

1以下

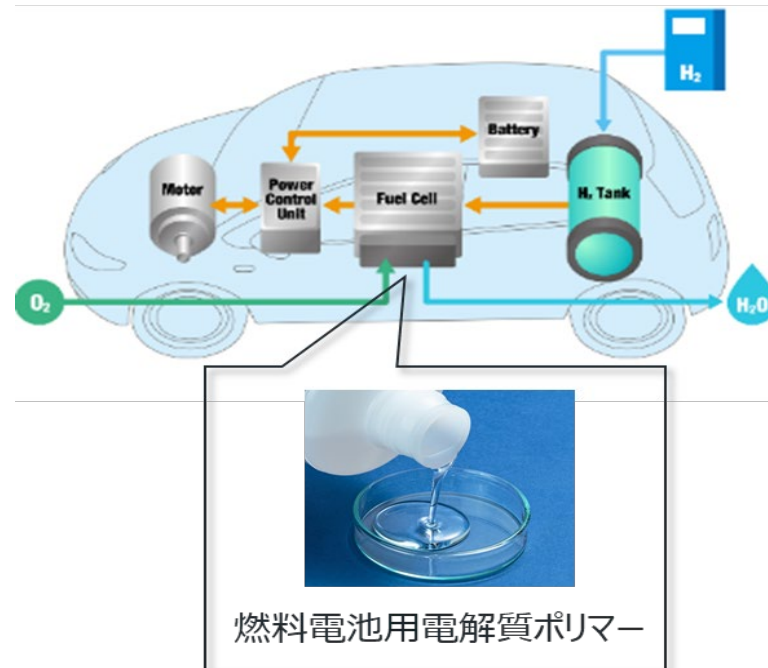
AMOLEA® 1224yd

- 水素社会実現に向けた燃料電池車の普及により、燃料電池用フッ素系電解質ポリマー需要拡大が加速
- 高発電性能と高耐久性を両立させ、圧倒的No.1ポジション

燃料電池車生産台数見込み*



燃料電池車の構造



■気候変動対応に向け、2025年までの5年間で1,000億円*以上投資

気候変動対応に関連する累計投資額（計画）



<GHG排出削減貢献製品拡販のための投資>

- ・省エネ
- ・次世代エネルギー
- ・低GHG排出

など

<自社のGHG排出削減を目的とした投資>

- ・フロートガラス溶解窯におけるGHG排出量削減
- ・電力源の再生可能エネルギーへの転換

など

3. 最後に

**独自の素材・ソリューションの提供を通じて
サステナブルな社会の実現に貢献するとともに
継続的に成長・進化する
エクセレントカンパニーでありたい**

4. Appendix

AGCグループの価値創造モデル

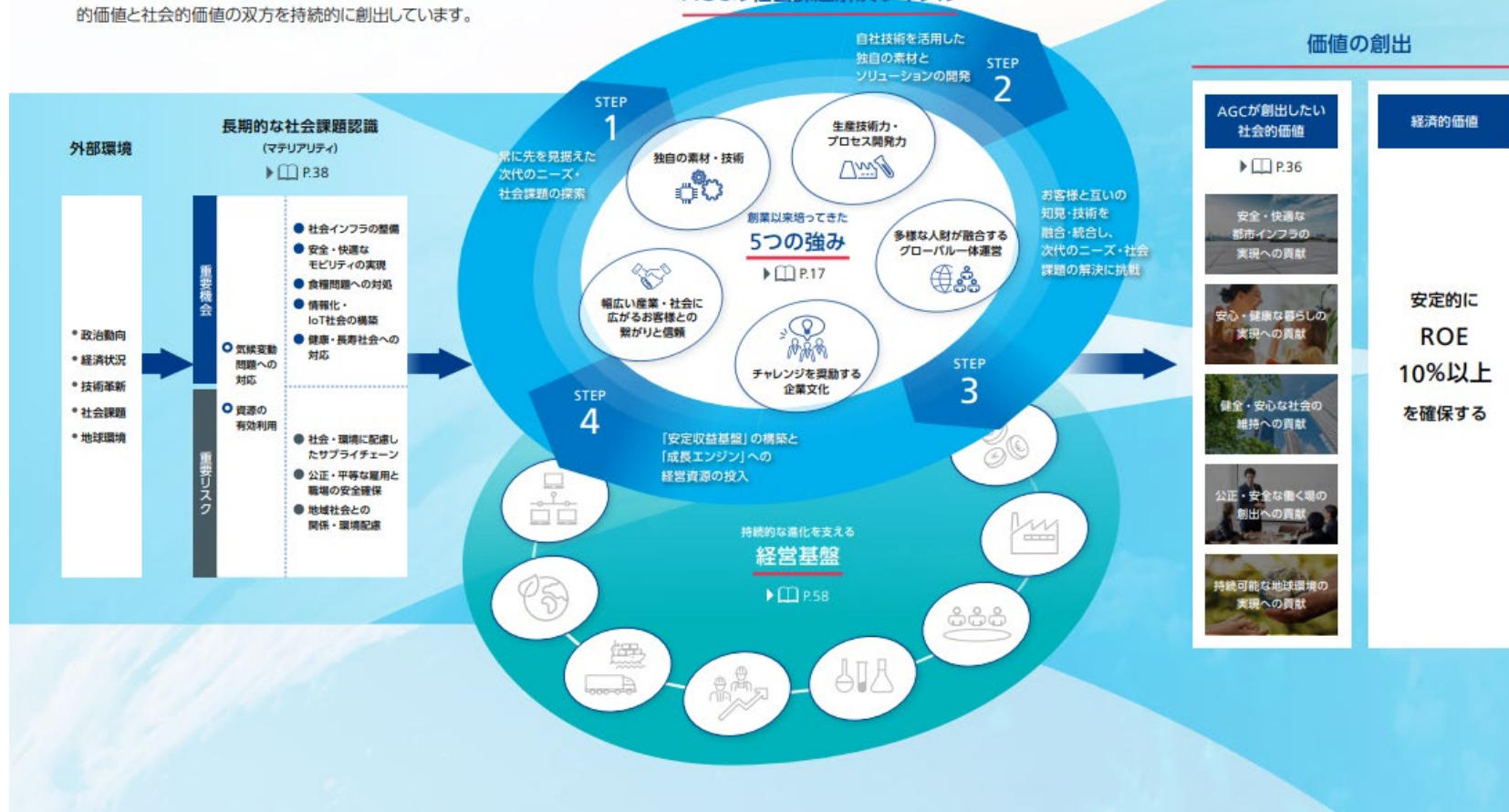
AGCグループはグループビジョン **“Look Beyond”** に基づき、長期視点の経営を実践しています。そして創業以来培ってきた5つの強みを軸として、互いの知見や技術を掛け合わせ、人々の想いの先、夢の実現に挑み、「AGCの社会課題解決サイクル」を回すことにより、経済的価値と社会的価値の双方を持続的に創出しています。

AGCグループビジョン **“Look Beyond”**

AGCグループのすべての事業活動、社会活動を貫く企業理念です。
AGCグループは常に将来を見据え、自らの領域を超えた視点を持ち、現状に満足せず飽くなき革新を追求しています。

▶ P.4

AGCの社会課題解決サイクル



1 SDGsマッピング

長期的な社会課題認識を検討する上で、サステナビリティ実現に向けた現在位置を再確認するために、AGCグループの既存製品がどのような社会課題解決に貢献しているか、SDGsの169のターゲットに基づいて分析しました。

1. 事業領域ごとに、主要な既存製品をピックアップ
2. 製品ごとに、売上規模と成長性により、「事業インパクトスコア」を算出
3. 製品ごとに、貢献できると考えられるSDGsのターゲットに紐付け
4. SDGsのターゲットごとに、紐付けられた全製品の貢献内容を勘案してAGCグループが創出している社会的価値を記述
5. 社会的価値ごとに、紐付けられた全製品の「事業インパクトスコア」を合算
6. 各社会的価値の「事業インパクトスコア」を、課題解決への貢献度合いに基づき補正
7. 補正結果を「社会的インパクトスコア」とし、上位15位までを顕著な社会的価値として特定

上記により、既存製品による現在の社会課題解決への貢献領域を確認



省・創・蓄エネルギーと
気候変動の緩和

スマートシティ構築

安心・安全な水資源

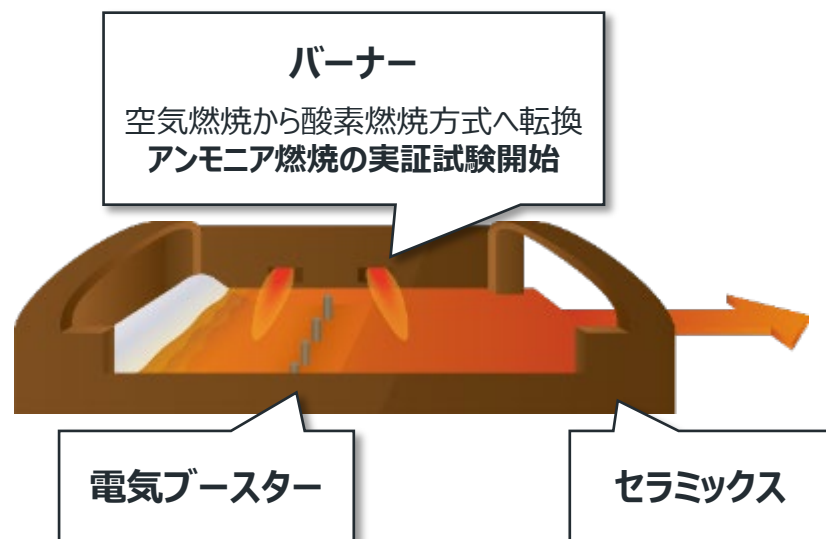


安全で快適な
モビリティ

健康増進・長寿社会

- 業界リーダーとして、世界トップレベルの省エネガラス製造技術を開発・導入
- カーボンネットゼロに向けて、カーボンフリーなアンモニア燃焼など最先端生産技術開発を推進

省エネガラス製造技術



アンモニア燃焼技術開発

天然ガスや重油での燃焼 ⇒ アンモニア燃焼へ

- アンモニア**
- 燃焼時にCO₂を生成しない
 - 貯蔵性・輸送性高い
 - 広く流通

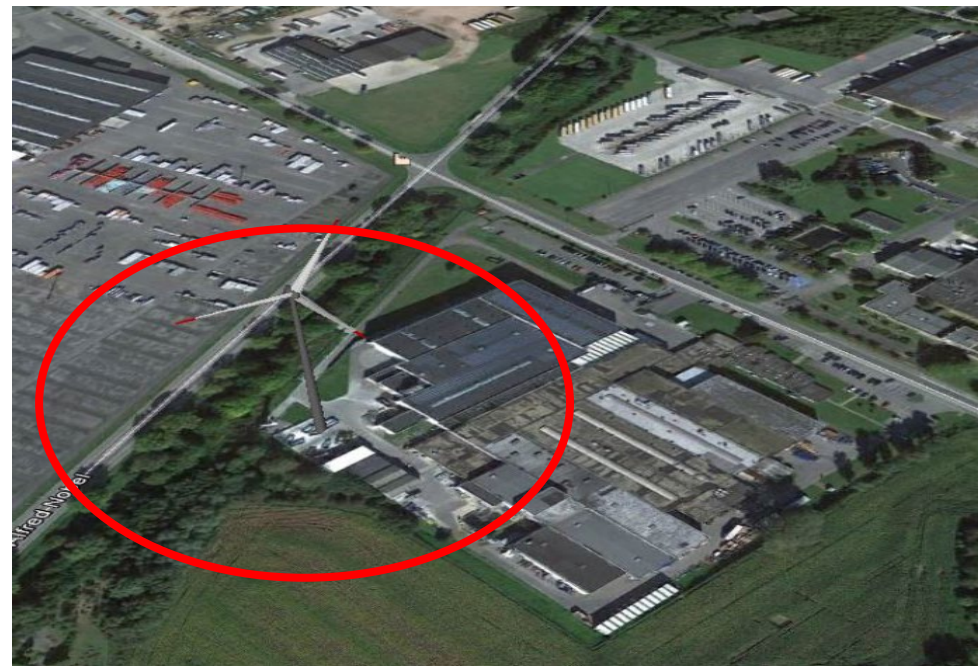
NEDO委託事業へ採択

ガラス溶解炉への本格導入を目指す

- 建築用ガラス(欧米)の本社や工場への電力供給にソーラーパネルや風力発電を活用



900 枚のソーラーパネルを導入し、ニアリー ゼロ・エネルギービルディング実現した ベルギー本社



風力発電設備を導入したSeneffe 工場

- 事業そのものだけでなく、原料調達・製造・物流・販売・廃棄までのライフサイクル全体から発生するGHG排出量削減への貢献

環境対応型新冷媒・溶剤

AMOLEA® シリーズ



施設園芸用フッ素樹脂フィルム

エフクリーン®



- GHG排出削減に貢献する製品、技術の開発推進

燃料電池用電解質ポリマー溶液

FORBLUE™ iシリーズ



- 東南アジア地域における、マングローブ植林活動、サンゴ礁保護活動の積極推進

アサヒマス・ケミカル社

マングローブ植林プロジェクト

キックオフセレモニー (2021.12.22)



製品・技術、企業活動を通じて、社会的価値を創出

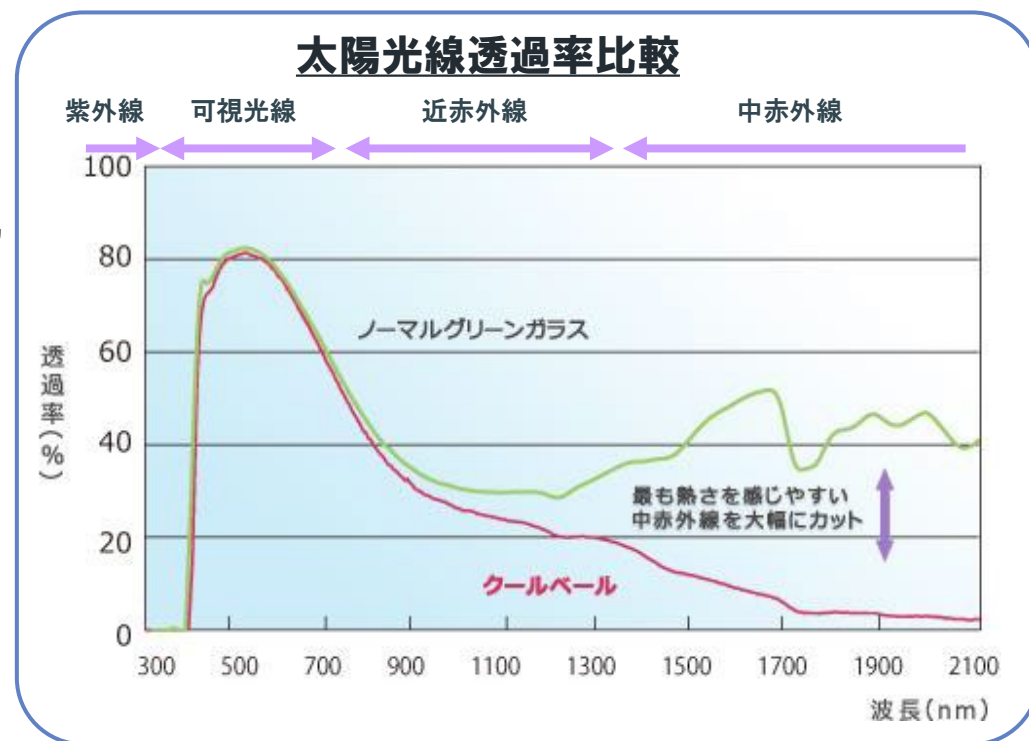
事業 社会的価値	ガラス	電子	化学品	セラミックス
持続可能な 地球環境の実現 への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・フロート板ガラス (リサイクル原料使用製品、 薄板化) ・Low-E複層ガラス ・コーティングガラス ・建材一体型太陽電池 モジュール ・薄板ガラス(化学強化ガラス) ・自動車用ガラス など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイ用ガラス (リサイクル原料使用製品) ・太陽電池用TCO基板 ・太陽電池カバーガラス ・光学関連部材 ・高速通信用部材 ・高出力LED用ガラス セラミックス基板 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・低環境負荷型冷媒・溶剤 ・燃料電池用部材 ・フッ素樹脂 ・塗料用フッ素樹脂 ・太陽電池保護用フッ素樹脂 フィルム <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・耐火物 (リサイクル原料使用製品) ・超断熱セラミックス炉壁 ・バイオマス発電ボイラー 用耐火物・エンジニアリング <p style="text-align: right;">など</p>
安全・快適な 都市インフラの 実現への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・Low-E複層ガラス ・防災・安全合わせガラス ・建物窓取付アンテナ ・自動車用ガラス ・車載用カバーガラス ・遮音合わせガラス ・調光ガラス ・自動車用ガラスアンテナ ・HUD部材 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイ用ガラス ・車載センシング・レーダー 用部材 ・半導体製製造用部材 ・高速通信用部材 ・AR/MRガラス向けガラス基板 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・塩ビ ・苛性ソーダ ・次亜塩素酸ソーダ ・重曹 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工業炉向け耐火物・ エンジニアリング ・ごみ焼却炉用耐火物・ エンジニアリング <p style="text-align: right;">など</p>
安心・健康な 暮らしの実現 への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・Low-E複層ガラス ・自動車用UVカットガラス <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療用モニター ディスプレイ用ガラス ・高速通信用部材 ・理化学実験用ガラス器具 ・組織培養製品 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品原体・中間体 ・農薬原体・中間体 ・施設園芸用フッ素樹脂フィルム ・水処理用高機能膜 ・重曹 (人工透析用輸液) <p style="text-align: right;">など</p>	

クールベール®

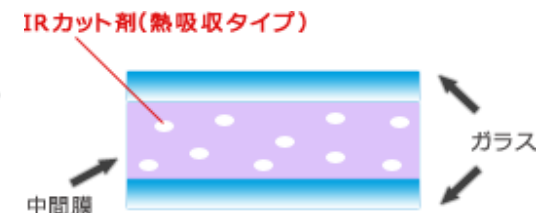


赤外線と紫外線の両方をカットし、さらに快適な車内を実現

- 太陽光線のうち、最も熱さを感じやすい**中赤外線**を効率的にカットし、直射日光による**ジリジリ感**を低減
- 車内の温度上昇を抑え、快適性や**燃費**を向上
- お肌の老化の原因となる紫外線も、約99%カット
- 電波を透過



中間膜にIR(赤外線)カット剤を練りこみ、IRを効果的にカット



コーポレートガバナンス体制

- 2002年より取締役会の経営監視機能の強化に取り組む。
 - ・取締役会7名のうち、3名が独立性の高い社外取締役
 - ・任意の諮問機関として「指名委員会」「報酬委員会」を設置、過半数を社外取締役に

社内監査役



常勤監査役
竜野 哲夫

独立社外監査役



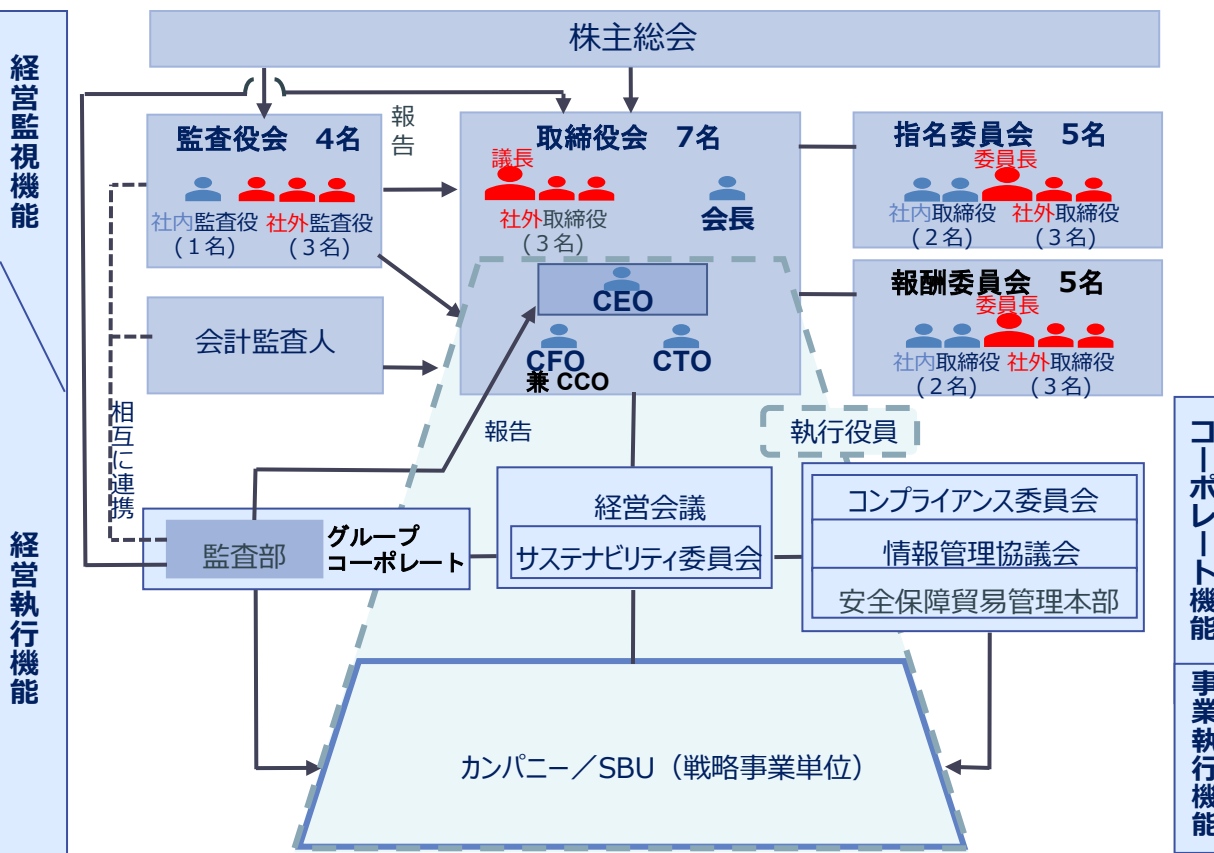
常勤監査役
監査役会議長
森本 芳之



非常勤監査役
竹岡 八重子



非常勤監査役
石塚 達郎



: 社内出身の取締役又は監査役
 : 独立性が確保された社外取締役又は社外監査役

社内取締役



会長
島村 琢哉



CEO
平井 良典



CFO
宮地 伸二



CTO
倉田 英之

独立社外取締役



取締役会議長
柳 弘之




指名委員会委員長
本田 桂子



報酬委員会委員長
手代木 功

コーポレート機能
事業執行機能

FTSE4Good Index Seriesに選定	
FTSE Blossom Japan Indexに選定	
CDP Climate Change A- 評価	
「第5回日経スマートワーク経営調査」4星の格付けを獲得	
女性活躍推進に優れた企業を選定する「なでしこ銘柄」に昨年選定	
「健康経営優良法人2022ホワイト500」に選定	
EcoVadisサプライヤー評価で最高ランクを取得 「PLATINUM」：鹿島工場、AGC Pharma Chemicals Europe社 他国内外複数拠点で高評価	
Derwent Top 100 グローバル・イノベーター 2022に選定	
「DX銘柄2022」に選定	



Your Dreams, Our Challenge

END

予測に関する注意事項：

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。